

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年3月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、3月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
3月のトピックス5選	3
花木の取組実績を検討し次年度に活かす	3
第7回上浦地区早期復興ワーキングチームを開催	3
「甘平」の連年安定生産を目指して意見交換！	4
ブロッコリーのドローン防除実演会を開催	4
「西宇和地域かんきつ集落営農組織支援事業」の実績と今後の対応について共有	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
「西条地区青年農業者の集い」の開催	6
農福連携マッチングのデジタル化を目指して	6
サルによる被害軽減効果の実証を基に対策を検討	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
一次産業女子グループが組織活動の活性化に向けた視察研修を実施	7
多様な茶の需要に応える販売を目指して	8
（うま茶振興協議会総会の開催）	8
■今治支局 地域農業育成室	8
かんきつにおけるシールドィング・マルチ栽培実証ほを設置	8
上浦地区再編復旧園の大苗育苗がスタート	9
第3回今治地区魅力発信活動を開催	9
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	10
かんきつでのドローン防除実演会の開催	10
■今治支局 産地戦略推進室	10
県事業活用によりジュース搾汁施設が完成	10
「愛媛果試第28号」の大苗を野菜ハウスへ移植	11
醸造用ぶどう栽培マニュアル検討会を開催	11
■中予地方局 地域農業育成室	12
果樹園地整備、耕作予定者の支援策を協議	12
施設なすの天敵導入を開始	12
なす天敵利用技術の拡大に向けて	13
ユーカーリ産地の拡大に向けて	13
農業女子がかんきつの病虫害やせん定方法等を学ぶ	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
伊予地区青年農業者が経営管理等を研修	14
青年農業者による新規就農者の農作業支援	15
基調講演で集落営農の先進事例を紹介	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16


久万高原町郷土料理講座を開催	16
第3回久万高原ブランドづくり推進会を開催	16
■中予地方局 産地戦略推進室	17
パクチーの周年安定生産対策会議を開催	17
「さくらひめ」鉢物の高品質化に向けて	17
■南予地方局 地域農業育成室	18
青年農業者がリモート研修会を開催	18
宇和島圏域におけるさといもの振興方向を検討	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
きゅうりの新規栽培者に環境モニタリング機器の活用方法を指導	19
高級菓子用加工桃の「枝吊り整枝」を指導	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
南宇和高校生に就農支援制度を紹介	20
■南予地方局 産地戦略推進室	20
道の駅みまのこだわり農産物第3弾始動	20
うめ早期収量予測への取組	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
郷土のおやつを町内児童に伝承	21
他県のスマート農業優良事例調査の実施と今年度の活動実績を検討	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
農作物鳥獣害防止対策推進協議会の開催による被害対策の強化	22
若手生産者が「儲かる農業」の実現を目指し実証ほを視察	23
生活研究会がSDGsについて研修	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
省力化に向けたゆずの樹形改善	24
ミニトマト高設ポット栽培でDX啓発	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
令和5年産かんきつ輸出に向け意識統一を図る	25



3月のトピックス5選

標 題	花木の取組実績を検討し次年度に活かす		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月22日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	管内育苗農家及びJA、県立丹原高校園芸科学科（15人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○花木の生産振興を図るため、東予地域花木生産対策会議実績検討会を開催した。</p> <p>○当日は、県立丹原高校から、挿し木による発根率を向上させる「花木苗生産プロジェクト」の実証成果の発表を行うとともに、当室から、10月に東京大田市場で実施した農協合同PRの販促活動や実需者の評価等について報告した。</p>			
結果と今後	<p>○プロジェクトの実証成果として、ピットスポラム、メラレウカの2品目について、挿し穂の充実度（新芽の太さや硬化度合い）の違いによる発根状況と密閉挿しの有効性を明らかにでき、次年度は、密閉挿しの技術を管理しやすいプラグトレイで行うことなどを申し合わせた。</p> <p>○実需者の評価等を受け、出荷規格を見直すとともに、今日、新たな花木の作付け提案を受け、試作に取り組むこととしている。</p> <p>○なお、同校は、地域と密着したこのプロジェクトにより「第7回大地のカコンペ 未来シーズ賞」「えひめ地域づくりアワード・ユース 2022 奨励賞」を受賞。</p>			
<p style="text-align: center;">【大地のカコンペ】</p> <p>一般社団法人未来農業創造研究会が主催し、農業の力やそのフィールドを通してさまざまな社会課題の解決を目指す動きを表彰するもの。</p>		<p style="text-align: center;">【えひめ地域づくりアワード】</p> <p>公益財団法人えひめ地域活力創造センターが主催し、地域活力の創造と持続可能な地域社会構築を目指して、高校生が主体となった地域づくりに関する実践活動を表彰するもの。</p>		 <p>活動発表を行う高校生</p>



標 題	第7回上浦地区早期復興ワーキングチームを開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年3月20日	場所	JAおちいまばりしまなみ共選会議室	
指導対象	上浦地区早期復興ワーキングチームメンバー（22人）	連携機関	上浦地区早期復興ワーキングチーム構成機関（県・今治市・JAおちいまばり）	
普及指導内容	<p>○西日本豪雨で被災した樹園地の再編復旧工事が進む上浦地区において、関連事業の円滑な推進と早期の営農再開に資するため、関係者が情報共有・意見交換を行う標記ワーキングチームの第7回会議を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○会議では一部区画の整備が完了し、3月から大苗生産ほ場として活用する井口工区や、1月に工事が開始された盛工区の進捗状況のほか、植栽品種等の最新の営農計画について情報共有を図るとともに、今後の対応方針等について意見交換を行った。</p> <p>○また、復旧園地を新たな担い手の確保と未来型果樹農業への転換に向けた推進拠点として整備するため、県が創設する「再編復旧園発スマートアグリ推進事業」について説明を行うなど、来年度以降実施する各種施策の円滑で効果的な連携に向けて意思統一を図った。</p>			
 <p>ワーキングチーム会議</p>		 <p>現地視察（井口工区）</p>		



標 題	「甘平」の連年安定生産を目指して意見交換！		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月16日	場所	中予地方局 7階大会議室	
指導対象	JA 営農指導員(11人)、市町担当職員(4人)	連携機関	JA えひめ中央、JA 松山市、松山市伊予市、砥部町、県関係機関	
普及指導内容	<p>○「甘平」の連年安定生産技術の確立を図るため「第2回魅力ある中晩柑産地づくり会議」を開催した。</p> <p>○今年度管内2JAと連携して「土壌水分計を活用したかん水管理」の実証試験結果について、JA及び当室の担当者から報告した。</p> <p>○また、果樹研究センターの研究成果やJAから「甘平」の産地動向等の報告のほか、意見交換を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○裂果対策には、土壌改良や多頻度かん水による土壌水分の保持が有効であり、土壌水分計を活用した方法は、生産者が簡易に取り組む事のできる手法として期待される。</p> <p>○これまでの実証を通して、隔年結果や裂果が改善された事例を集めた「「甘平」の栽培改善事例集(中予版)」を作成。生産者が「甘平」の安定生産への手助けとなるよう、関係機関や生産者へ広く配布した。</p> <p>○次年度も引き続き、実証ほを活用した栽培改善事例を蓄積し、安定生産技術の確立を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 30%;">  </div> </div> <p style="text-align: right;">左：中晩柑産地づくり会議 右：作成した栽培改善事例集</p>				


標 題	ブロッコリーのドローン防除実演会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年3月1日	場所	愛南町御荘長月	
指導対象	愛南町ブロッコリー生産者(4人)、関係機関(25人)	連携機関	南宇和地区営農指導連絡推進会議 作物園芸部会 JA えひめ南南宇和野菜部会、愛南町	
普及指導内容	<p>○生産者の高齢化や規模拡大に伴う作業負担を軽減するため、省力化・軽労働化が図れるスマート農業への関心が高まっている中、ドローンの防除実演会を開催した。</p> <p>○当班から、菌核病や黒すす病、ヨトウムシ等を対象とした防除の流れを説明後、オペレーターが約800㎡のほ場で手動や自動航行による薬剤散布を実演した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「通常なら30分以上かかるところが3分ほどで終わり驚いた」「大規模な農地だと更なる効率化が図れる」とドローン防除の実用化に期待の声が上がった。</p> <p>○今後、薬害の有無や防除効果等の確認を行い、ドローン防除の実用化に向けた検討を進めていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>オペレーターによるドローン防除の実演</p> </div> </div>				



標 題	「西宇和地域かんきつ集落営農組織支援事業」 の実績と今後の対応について共有		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月7日	場所	八幡浜支局、西予市三瓶町蔵貫	
指導対象	協議会、組織リーダー等（9人）	連携 機関	JAにしうわ、伊方町、八幡浜市、 西予市、集落組織	
普及指導 内容	<p>○地方局予算事業「西宇和地域かんきつ集落営農組織支援事業」により法人を設立した2集落（伊方町中浦、西予市三瓶町蔵貫）をモデルに、集落ぐるみで営農を支える体制づくりと組織の経営力強化を支援している。</p> <p>○本事業に係る支援協議会を開催し、今年度の実績と今後の対応について検討した。</p> <p>○当室からは、事業の実施状況とともに、近隣集落で法人化等に向けた体制整備と意識の高揚が図れたことや、モデル集落で新規就農者が確保できたこと等の成果を報告した。</p> <p>○また、三瓶町蔵貫の現地において、法人の代表から、経営の現状や水田と畑地で構成される地域の将来像について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の取組が産地維持や担い手確保の一手法として一定の効果が見られたほか、法人化に向け、地域の合意形成や収益性の向上等の課題を関係者間で共有した。</p> <p>○当室では引き続き、設立済みの2法人が他地域のモデルとして発展するよう経営力強化に向けた伴走支援を継続するとともに、近隣2集落を含め更なる普及・啓発を図ることにより、集落営農組織の育成による産地の維持・発展に努める。</p>			
				
		<p>左：協議会で本年度の実施内容を報告 右：農事組合法人「楽蔵」代表が 蔵貫地区の状況を説明</p>		



えひめ農業 NOW



標 題	「西条地区青年農業者の集い」の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月2日	場所	西条市地域創生センター	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会員（18人）	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○青年農業者の実践班活動や協議会活動報告等を通じて、会員が相互の研鑽を図るため、3年ぶりに活動報告会の開催を支援した。</p> <p>○報告会后、当室担当者が各実践班員へ今後の活動について提案を行い、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○当日は、実践班活動や全国農業青年交換大会、視察研修等の7つの事例報告が行われ、with コロナの中でも精力的に活動していたことを再確認した。</p> <p>○報告会后の各実践班員との意見交換で、今後の現地活動を活発化させることを申し合わせた。</p> <p>○当室は、今後も実践班活動を始めとした青年農業者の活動を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：事例報告</p> <p>右：実践班別の意見交換</p> </div> </div>				



標 題	農福連携マッチングのデジタル化を目指して		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月15日	場所	西条第2庁舎4階大会議室	
指導対象	集落営農法人（24人）、西条市就労支援事業所（13人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○局予算事業「農福連携デジタル化支援事業」を推進するため、第2回農作業受注システム検討会議を開催し、関係者（集落営農組織、就労支援事業所、JA、市県）と今年度の取組みを振り返り、次年度に向けて意見交換を行った。</p> <p>○株式会社 KIRI の高橋氏が検討を重ねてきた農作業共同受注システムデザインについて説明した。</p>			
結果と今後	<p>○検討会議では、当事業を契機に、集落営農組織で実績のあるさといもの収穫作業の請負面積が令和3年度の4倍の14haになり、新たにアスパラガスの親株除去の発注が入るなど件数が増え、改めてシステムへの期待は強いと再認識した。</p> <p>○同システムは全国でも事例がなく、次年度の夏には仮運用を開始し、システムの検証と改修を進め、令和5年度末の本格運用を目指す。</p> <p>○今後の課題としては、システムの具体的な運用方法の決定と農福連携に参加する人員を増やすことであり、協議を続ける。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：高橋氏によるシステムデザインの説明</p> <p>右：農福連携の取組みを説明する福祉共同窓口</p> </div> </div>				



標 題	サルによる被害軽減効果の実証を基に対策を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月27日	場所	西条市丹原町寺尾集会所	
指導対象	サル対策モデル集落リーダー(6人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○当室では、サルによる被害対策実践モデル集落として、寺尾集落における大型捕獲檻を用いた捕獲実証等を支援している。</p> <p>○今年度、新たに「挑戦的新技术等先行モデル実証事業」を活用して、クラウドセンサーカメラを用いた追払いによる被害軽減効果の実証を行った。その成果報告を行い次年度の活動について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の実証では、クラウドセンサーカメラで出没を確認するとLINEへ通知されるように設定し、追払いによる被害軽減効果を検証した(12/1~2/28の3か月間)。</p> <p>○実証期間中のサルの撮影頻度は2~3日/月程度で、センサーが正常に機能すれば月2~3日程度の追払いで集落への侵入を抑制できる可能性が示唆された。</p> <p>○また、実証後のアンケートでは、約6割の追払い実施者で効果があった一方、住民の約9割で被害があったと回答した。</p> <p>○これらの結果を踏まえ次年度は、実施期間を延長し効果検証を継続できるよう検討していく。</p>			
<p>【挑戦的新技术等先行モデル実証事業】 鳥獣管理専門員が既存の対策からもう一段階上の効果的・効率的な対策となりうる新技术等に取り組む事業</p>				<p>実証結果を基に次年度の取組みを検討</p>




標 題	一次産業女子グループが組織活動の活性化に向けた視察研修を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年3月9日	場所	西条市、東温市、松前町	
指導対象	さくらひめ四国中央会(4人)	連携機関	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	
普及指導内容	<p>○一次産業女子グループ「さくらひめ四国中央会」に対し、活動の活性化に向け、他地域の一次産業女子との交流と事例調査を兼ねた視察研修を企画提案し、その円滑な実施を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は、松前町の「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」のメンバーである「竹中園芸(葉れるやグループ代表)」と「木下農園(からふるリーフグループ代表)」を訪問し、花き栽培や特産品のPR方法などの事例調査と経営方針、6次産業化の取組などについて意見交換したほか、東温市の農家レストラン及び西条市の観光農園の取組事例を学んだ。</p> <p>○会員は意見交換や事例調査を通じて、新たな活動に関する知見を得ており、更なる組織活動の活性化が期待されるとともに、今後は視察先グループと連携した活動の展開も検討していく。</p>			
				<p>左：花き栽培と産直市の事例調査 (竹中園芸)</p> <p>右：食農教育と特産品PR事例調査 (木下農園)</p>




標 題	多様な茶の需要に応える販売を目指して (うま茶振興協議会総会の開催)		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年3月22日	場所	新宮公民館 (四国中央市新宮町)	
指導対象	うま茶振興協議会 (10人)	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	<p>○うま茶振興協議会の令和4年度総会の開催を支援し、コロナ禍に伴う行動制限の緩和以降、霧の森への人出や茶の販売が好調に戻りつつあることを背景に、次年度の積極的な販売方法、産地や商品の効果的なPR方策を軸とした協議を行った。</p> <p>○当班からは、産地と商品の愛称「結の霧ひめ」の更なる認知度向上に向けて、(株)愛媛新聞社と連携した販促やインフルエンサーを活用したPRなど、新たな活動計画を提案し、協議会一体となって取り組むことと了承を得た。</p>			
結果と今後	<p>○協議会の新たな取組みとして、茶業に理解のある地元業者のグランピング事業と連携し、お茶を原材料とした清涼飲料の開発に着手することとし、当日は先行商品の試飲を交えながら、早期の販売開始に向けた検討を進めることとなった。</p> <p>○当班は、今後も観光施設や他産業と連携した商品開発や体験型ツーリズムの実践など、地域の産業文化を活かした魅力的な企画・提案も鋭意進めることとし、「結の霧ひめ」の更なるブランディングに向け、需要にマッチした販売展開を支援する。</p>			
				<p>左: 次年度の取組みを熱心に協議 右: 新たな商品(飲料)の検討と 試飲</p>




標 題	かんきつにおけるシールドイング・マルチ栽培 実証ほを設置		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月24日	場所	今治市大西町	
指導対象	かんきつ生産者 (9人)	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○かんきつ類の糖度向上を図るため、越智今治広域営農団地にてシールドイング・マルチ(以下、S.マルチ)栽培の実証ほを設置した。</p> <p>○当日は、大西町果樹同志会員に対し「S.マルチ」栽培と設置方法について講習した後、実証ほ場に移動し、S.シート(通路側から根域への水の流入を防ぐシート)の埋設作業を実施した(45m3列分)。</p>			
結果と今後	<p>○参加した会員からは、「バックホーがあれば設置は比較的簡単だ」「糖度が上がらない園地に設置してみたい」「糖度がどうなるか見ていきたい」などの声が聞かれた。</p> <p>○当室ではJAと協力して、2月に設置した菊間のはほ場と合わせ、設置後の調査を実施し、その結果を「はれひめ」「愛媛果試第28号」へも波及させていく予定である。</p>			
<p>【S.マルチ】 雨水のマルチ下への流入とマルチ外への根の伸長を防止し、確実な乾燥ストレスを付与し、糖度上昇を目指すもの</p>				
		<p>【S・マルチ講習】</p>		<p>【S.シートの埋設】 列ごとにS.シートを埋設</p>



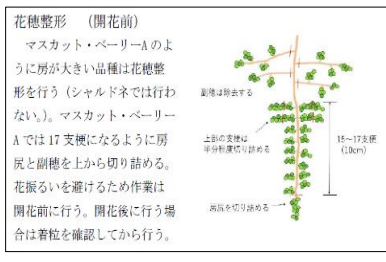
標 題	上浦地区再編復旧園の大苗育苗がスタート		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月23日	場所	今治市上浦町	
指導対象	JA 若手営農指導員、東予局若手普及指導員	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○上浦地区再編復旧園に植栽する約 5,000 本の大苗育苗を開始した。</p> <p>○当室から、植え付け方法や今回活用する軽量化大苗育苗技術について説明を行い、実際に植え付けを開始した。</p>			
結果と今後	<p>○復旧園にはレモンや「愛媛果試第 28 号」「愛媛果試第 48 号」「はれひめ」「甘平」を植栽する予定であり、当日は約 600 本のレモンの苗木をポットに植え付けた。</p> <p>○復旧園への植栽は、基盤整備と土づくりが完了した園地から順次行う計画で、令和 5 年度末に井口地区のレモンの植栽から開始する。</p>			
<p>【軽量化大苗育苗技術】</p> <p>ヤシガラともみ殻を混ぜ合わせた培土を使用することで、通常の培土より 80～90%の重量減となり、定植時の運搬作業における負担軽減が可能。</p>				<p>苗木の植え付け</p> <p>植え付けが完了した苗木</p>

標 題	第 3 回今治地区魅力発信活動を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月3日	場所	しまなみ農業指導班・今治市菊間町	
指導対象	今治南高校園芸クリエイト科(8人)	連携機関	今治南高校、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○地域の将来の担い手確保と農業の魅力発信による地域農業の振興を目的に、地元高校生を対象とした魅力発信活動に取り組んでおり、今回はその第3回目。</p> <p>○当室から今治産かんきつの特性と有望品種について説明し、指導班で栽培している県オリジナル品種「愛媛果試第 48 号 (紅プリンセス)」等の試食会、菊間町の「せとか」の園地で収穫体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○体験後、生徒からは「紅プリンセスが美味しくてびっくりした」「斜面での収穫が大変だった」などの意見があった。</p> <p>○当日の様子は、今治 CATV で 4/7 から 1 ヶ月間放送される。</p>			
		<p>左：今治産かんきつについての説明</p> <p>右：せとかの収穫体験</p>		



標 題	かんきつでのドローン防除実演会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年3月20日	場所	上島町岩城 技術実証G レモン園	
指導対象	レモン生産者 (20人)	連携機関	大信産業株式会社	
普及指導内容	○かんきつ栽培農家の高齢化が進み、防除作業委託が増加していることを受け、スマート農業技術のひとつであり軽労働で短時間に防除が行えるドローンの防除効果の実証と併せて防除実演会を開催した。			
結果と今後	○農家の関心は高いが、現状ではかんきつの農薬登録数が少なく、ドローンによる年間防除は難しいと考えられ、手散布との併用での効率的な活用法等も含め検討が必要。 ○今後、防除効果確認等の技術実証を通じて、技術導入の可否を判断する。			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【無人航空機で使用できるかんきつ登録農薬数】 (R5.2月現在)</p> <p>殺菌剤 7剤 殺虫剤 5剤</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">ドローンの機体や防除技術の説明を傾聴 ドローン散布の実演</p>				



標 題	県事業活用によりジュース搾汁施設が完成		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月20日	場所	ジュース搾汁工場 (今治市大西町山之内)	
指導対象	優樹の里	連携機関	今治市	
普及指導内容	○今治市大西町でかんきつの有機栽培に取り組む「優樹の里」(代表:井上守)では、生産物の約3割が規格外品となっていたことから、当室は県単事業「6次産業内製化支援事業」を利用した搾汁設備の整備を提案した。 ○事業や資金計画の策定等について支援してきた結果、20日に搾汁施設の開場式が開催された。			
結果と今後	○式には、県や今治市、地元農業者等が参加。参加者は、一部をスケルトン化した施設の外壁をはじめ、新たに導入した搾汁機や殺菌庫、冷蔵庫等を見学した。 ○今後、完成した施設の一部には、搾汁の様子が見学できるカフェやイベント等が開催できるフリースペースが設置される予定。当室は引き続き農業者の加工販売に係る活動を支援していく。			
  				
ジュース搾汁施設			施設内部	
			搾汁機器	

標 題	「愛媛果試第 28 号」の大苗を野菜ハウスへ移植		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 5 年 3 月 8 日、9 日	場所	今治市	
指導対象	生産者（2 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○大苗を利用した「愛媛果試第 28 号」の高収益栽培のモデル実証を行うため、野菜栽培から品目転換する意向の生産者に対し、水田転換園の地下粘土層の改善と畝立てを指導し、問題となる排水対策と根域の確保に取り組んだ。</p> <p>○定植した大苗は、間伐予定だった 4 年生樹で市内の別園地から移植したもの。</p>			
結果と今後	<p>○今後は土壌改良後の発根状況の観察や、野菜用小型ハウスでの大苗管理を通して、水田転換園での健全樹の育成と大苗の管理方法の確立を目指す。</p> <p>○また、同生産者は野菜の小型ハウスの廃材を活用した新型ハウスを基盤整備園に建設予定。当室ではハウスの建設を通して、低コストハウスの建設と基盤整備園地の土壌改良技術について確立、普及を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>実証園の土壌改良</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>定植前のせん定管理を指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>定植した 4 年生樹</p> </div> </div>				


標 題	醸造用ぶどう栽培マニュアル検討会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 5 年 3 月 13 日	場所	今治市	
指導対象	株式会社大三島みんなのワイナリー	連携機関	果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○醸造用ぶどうの栽培マニュアル及び防除暦を策定するため、株式会社大三島みんなのワイナリーと果樹研究センターの研究員を交え記載内容等を検討した。</p> <p>○新たに策定する栽培マニュアルには、過去 4 年間の現地実証の結果等を反映させ、生食用とは異なる特有の栽培管理等について記載。防除暦には、今年度初発生した害虫や病害の写真を掲載するなど新規栽培者にも簡単にわかるようにした。</p>			
結果と今後	<p>○策定したマニュアルは、生産者に配布し栽培技術の向上を図るとともに新規生産者への指導に役立つ。</p> <p>○当室では、しまなみ地域の他の特産品と連携した販売促進活動に取り組んでおり、ワインの販売面での支援を通して産地を育成する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>栽培マニュアル策定に向けた協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>初発を確認したフタテンヒメヨコバイ（マニュアル写真）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栽培マニュアル（花穂整形ページ）</p> </div> </div>				



標 題	果樹園地整備、耕作予定者の支援策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月2日	場所	中予地方局	
指導対象	中予地区柑橘農業復興・再生ワーキングチーム	連携機関	松山市、JA松山市、JAえひめ中央、中予地方局農村整備第一課・第二課	
普及指導内容	<p>○中予地区における樹園地再編の円滑な事業推進のため、今年度2回目となるワーキングチーム会を開催し、7地区の整備工事や営農計画支援の進捗状況について情報共有した。</p> <p>○当室からは下難波地区での基盤整備園地の土壌物理性調査及び土づくり資材を用いた苗木の生育促進試験について結果報告した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、土づくりや苗木の生育促進に関する基礎データの蓄積を継続するとともに、伐採木を堆肥化して整備園地へ還元する方策を検討する。</p> <p>○また、要望のある獣害対策施設の設置に対する支援措置についても協議を重ねる。</p>			
 <p>ワーキングチームで協議</p>				


標 題	施設なすの天敵導入を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月2日	場所	松山市森松	
指導対象	なす生産農家（44人）	連携機関	JAえひめ中央	
普及指導内容	<p>○なす天敵利用技術普及に向け、天敵温存ハウスからタバコカスミカメを採取し、定植直後のなすハウスへ放飼した。</p> <p>○また、2月28日には、スワルスキーカブリダニを放飼しており、2種類の天敵利用により安定した害虫防除効果が期待できる。</p>			
結果と今後	<p>○今作では新規に5人が天敵を導入予定であり、天敵定着に向け、ゼロ放飼を徹底する。</p> <p>○実証結果を各地区の栽培講習会で周知し、天敵利用技術を広める。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>【ゼロ放飼】 化学農薬等で害虫の密度をゼロに近い状態にして、天敵を放飼すること。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;">   </div> </div> <p style="text-align: center;">天敵温存ハウスで天敵を採取 タバコカスミカメの放飼</p>				


標 題	なす天敵利用技術の拡大に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月14日	場所	中予地方局	
指導対象	なす天敵利用技術検討会構成員 (14人)	連携 機関	松山市、伊予市、東温市 JA松山市、JAえひめ中央	
普及指導 内容	○なす天敵利用技術の拡大に向け、「第2回なす天敵利用技術検討会」を開催した。 ○天敵利用実証結果や先進地事例調査結果、新規栽培者の確保や栽培管理の「見える化」 について報告を行った。			
結果と今後	○防除回数は施設栽培 57%削減、露地栽培 30%削減（ともに慣行比）となり、果実品質は同等以上であった。 ○土着天敵のみを利用した天敵利用の実証に取り組むほか、天敵利用技術マニュアルを作成し、生産者への普及を図る。			
				<p>左：実証結果について説明 右：土着天敵タバコカスミカメの観察</p>

標 題	ユーカリ産地の拡大に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月15日	場所	中予地方局	
指導対象	中予地域ユーカリ生産対策協議会 構成員（13人）	連携 機関	松山市、東温市、JA松山市 JAえひめ中央、花き研究指導室	
普及指導 内容	○中予地域におけるユーカリ産地の拡大に向け、「第2回中予地域ユーカリ生産対策協議会」を開催した。 ○大苗利用技術及び水田転換ほ場での排水性改善技術、新規ユーカリ品種（パルブラ、アップルボックス等）の導入実証の結果や先進地事例調査結果について報告を行った。			
結果と今後	○大苗を10月上旬に定植することで、未収益期間を半年程度短縮したほか、ほ場通路に縦穴を開けることにより、排水性が改善された。 ○また、新規ユーカリ4品種はいずれも生育旺盛で、1年目からの出荷が可能であることを確認したことから、次年度は2年目の栽培特性を調査し、有望性を検討する。			
				<p>左：栽培技術実証結果について報告 右：新規ユーカリ4品種の比較検討</p>



標 題	農業女子がかんきつの病害虫やせん定方法を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室	
年月日	令和5年3月1日	場所	松山市道後		
指導対象	一次産業女子(6人)	連携機関	JA えひめ中央		
普及指導内容	<p>○かんきつの栽培講習会を開催し、主な病害虫被害の症状と原因や、防除の時期やポイントについて説明したほか、せん定方法を指導した。</p> <p>○実際に被害果を見ながら病害判定を実施するとともに、「愛媛果試第28号」や伊予柑などの品種によるせん定方法の違いを説明した。</p>				
結果と今後	<p>○参加者は、病気の症状や発生時期、農薬散布の適期などの説明を熱心に聞き、せん定方法についても、品種の特性を生かした樹形のポイントを理解していた。</p> <p>○また、参加者から、今後は草刈り機やチェーンソーのメンテナンスの方法や農業経営についても学びたいとの声があったことから、引き続き支援する。</p>				
				<p>中晩柑のせん定方法について学ぶ農業女子</p>	


標 題	伊予地区青年農業者が経営管理等を研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	
年月日	令和5年3月22日	場所	砥部町中央公民館		
指導対象	伊予地区青年農業者連絡協議会(17人)	連携機関	えひめ農業経営サポートセンター		
普及指導内容	<p>○えひめ農業経営サポートセンターコンサルタントである中小企業診断士を講師に招き、損益分岐点の計算式や、経営リスクを見分ける診断のポイント等について指導した。</p> <p>○「令和4年度青年農林漁業ステップアップ活動支援事業」を活用した実証展示活動や先進地事例視察研修の報告を行い、会員間での情報を共有した。</p>				
結果と今後	<p>○引き続き、会員各自で損益分岐点の確認等経営診断を行い、経営改善につなげるとともに、協議会員相互の連携と技術交換を図り、会員のスキルアップを図る。</p>				
				<p>左：コンサルタントによる研修</p>	
				<p>右：先進地事例視察研修の報告</p>	

標 題	青年農業者による新規就農者の農作業支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年3月9日	場所	砥部町麻生地区	
指導対象	砥部町青年農業者（10人）	連携機関	砥部町	
普及指導内容	○新規就農者の早期経営安定を図るため、当班の提案により、砥部町青年農業者協議会が新規就農者のほ場で除草や苗木の定植作業を支援し、適期作業の重要性について指導した。			
結果と今後	○今回の取組により、新規就農者は遅れぎみとなっていたほ場管理の適期作業の重要性を理解するとともに、青年農業者との交流を図ることができ、仲間意識の醸成につながった。 ○引き続き、新規就農者とのコミュニケーションの創出、青年農業者間の結束力向上を図り、新たな担い手の早期定着に向けた課題解決を支援していく。			
				苗木の植付

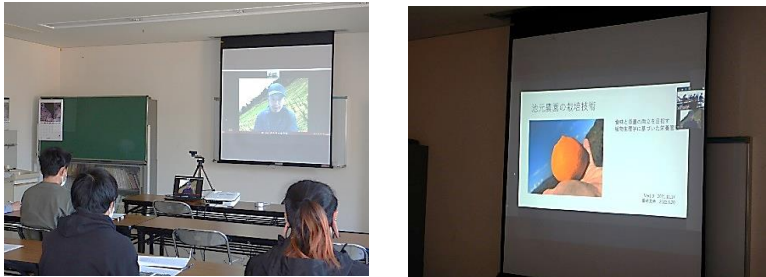
標 題	基調講演で集落営農の先進事例を紹介		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年3月13日	場所	伊予市 IYO 夢みらい館	
指導対象	松前町内の集落営農組織（30人）	連携機関		
普及指導内容	○伊予地区集落営農組織等連絡協議会は、集落営農の今後の在り方を検討するため、優良先進事例の情報提供として、西条市小松町の農事組合法人妙口原生産組合及び(株)あぐりサポートいわねの曾我敏数代表による基調講演を実施した。			
結果と今後	○組織化（法人化）した経緯や現在の経営状況、近年の新たな取組等を中心に話があり、意見交換では、労働力不足や規模拡大、農業機械の導入等、多岐にわたり、熱心なやりとりが行われた。 ○今後、集落営農での優良経営事例先との交流研修等も積極的に取り入れながら、集落営農組織の経営改善の一助とするとともに、関係機関と連携して産地の活性化に取り組む。			
				集落営農の先進事例に関する基調講演

標 題	久万高原町郷土料理講座を開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年3月5日	場所	久万高原町中央公民館	
指導対象	町内幼稚園・小学校保護者（29人）	連携機関	久万高原町、久万高原町生活研究協議会	
普及指導内容	<p>○高齢者の生きがいをづくりや耕作放棄地対策、地域食材の伝承につなげるため、今年度から地方局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」を実施した。</p> <p>○雑穀を使った料理は久万高原町で古くから伝わる郷土料理であるが、町内でも意外と知られていないとの実態が浮き彫りとなったことから、若い子育て世代を対象に郷土料理講座を開催した。</p> <p>○講座では、久万高原町生活研究協議会の会員が講師となり、地とうきびを使用した「花粉ねり」とたかきび、こきびを使用した「雑穀山菜おこわ」の調理を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○受講生からは、「意外と簡単に調理できるので、家庭でも作ってみたい」「昔から伝わる郷土料理の継承にも貢献したい」などの声が聞かれた。</p> <p>○次年度も、若い子育て世代を対象に、郷土料理講座を通じて地域食材の伝承を進めていく。</p>			
				<p>左：受講生による調理体験 右：参加者全員での試食</p>



標 題	第3回久万高原ブランドづくり推進会を開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年3月20日	場所	JA松山市久万経済センター会議室	
指導対象	ブランドづくり推進会議員（10人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	<p>○今年度から実施している地方局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」の活動実績及び次年度に向けた活動方針を検討した。</p> <p>○今年度の事業実績として、3本の雑穀郷土料理 PR 動画及びたかきびを代替肉として利用した3品の料理レシピを報告し、その中の一品である「クーマカレー（キーマカレー）」を試食した。</p>			
結果と今後	<p>○PR動画については、YouTube等で配信し、雑穀のPRを通して久万高原地域の魅力を発信する。</p> <p>○料理レシピについては、町内の道の駅等でのメニュー化に向けた活動を展開する。</p>			
				<p>左：ブランドづくり推進会議 右：たかきびを利用した「クーマカレー」</p>



標 題	パクチーの周年安定生産対策会議を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室	
年月日	令和5年3月13日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター 大会議室		
指導対象	パクチー生産者	連携 機関	JA えひめ中央、松山市 東温市 砥 部町、県関係機関		
普及指導 内容	<p>○パクチーの周年安定生産体制の確立を目的に、地方局予算事業「パクチー周年安定生産体制確立事業」に係る第2回対策会議を開催した。</p> <p>○実証ほの調査結果による夏秋期の播種時期と栽培日数の関係や夏季の芯ぐされ対策のほか、主な出荷先である関西圏でのPR活動、福岡県久留米市での先進地事例調査結果等を報告し、意見交換を行った。</p>				
結果と今後	<p>○出席者からは、冬春期の栽培日数の関係や栽培条件と株姿の関係、冷凍した場合の成分変化等の質問があり、福岡県の事例報告に対しては、大規模かつ効率的な経営内容に感心を示していた。</p> <p>○引き続き、実証ほを活用した成果を通じて、周年安定生産技術の確立と新規栽培者の確保を図る。</p>				
				<p>実証ほの調査結果を説明</p>	


標 題	「さくらひめ」鉢物の高品質化に向けて		機関名	中予地方局産地戦略推進室	
年月日	令和5年3月10日	場所	農林水産研究所花き研究指導室		
指導対象	「さくらひめ」鉢物生産者（8人）	連携 機関	農林水産研究所、農産園芸課		
普及指導 内容	<p>○「さくらひめ」鉢物生産者の栽培技術の向上を図るため、連絡会議を開催した。</p> <p>○当室から、市場等の需要動向調査やInstagramを活用した情報発信、フォトスポットの設置のほか、12～3月出荷に向けた栽培実証結果等について報告した。</p> <p>○これまでの現地実証結果や花き研究指導室の研究成果を参考に「さくらひめ鉢物栽培マニュアル（中予版）」を改正し、配布した。</p> <p>○現地検討会では、母の日出荷を目指した春出し加温栽培を実施している生産者のハウスで、肥培管理や病害虫防除等について情報交換を実施した。</p>				
結果と今後	<p>○実証に取り組んだ生産者からは「初めて栽培したが、11月に大阪の市場に出荷することができた」「3月出荷が可能となり、栽培に手ごたえを感じており、可能であれば生産量を増やしたい」等、次作に向けて意欲的な意見も聞かれた。</p> <p>○次年度は夏季自家育苗による出荷時期の前進化（3～4月中旬出荷）に向けた栽培実証等に取り組む。</p>				
					<p>左：連絡会議で栽培実証結果を報告 右：現地検討会で情報交換</p>


標 題	青年農業者がリモート研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月6日	場所	南予地方局	
指導対象	宇和島市青年農業者連絡協議会	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○会員の約9割がかんきつ生産者である同協議会では、夏場の乾燥や秋季の天候不順に対応した美味しいみかんづくりを目的に、勉強会や視察研修に取り組んでいる。</p> <p>○今回、異常気象の中でも独自の肥培管理やかん水方法で、毎年、高い品質の果実を生産されている鹿児島県内の篤農家を講師としてリモート研修会を企画した。</p>			
結果と今後	<p>○研修会では、「夏場の乾燥時期の効率的・効果的なかん水方法が理解でき、自分の園地でも取り組んでみたい」と積極的な声が聞かれた。</p> <p>○協議会では、本研修会で習得した技術を参考に、今年は「甘平」の裂果対策等の課題解決に向けた研究活動に取り組むこととしている。</p>			
			<p>リモート研修会 ※鹿児島県現地の農家と リモートで意見交換</p>	



標 題	宇和島圏域におけるさといもの振興方向を検討		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年3月9日	場所	南予地方局	
指導対象	宇和島圏域水田さといも生産振興協議会会員（15人）	連携機関	JA えひめ南、JA 全農えひめ、宇和島市、松野町、鬼北町、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○関係機関で組織する「宇和島圏域サトイモ生産振興協議会」を開催し、地方局予算で実施してきた種用さといもの生産に係る実証結果と今後の方向を協議した。</p> <p>○さといも疫病対策では、ほ場内への防除用通路設置により、草丈が高くなった場合でも葉への薬剤付着率が向上し防除効果が高まることや、種芋の貯蔵試験では、ハウス内に搬入し保温資材で被覆することで今年1月の大雪・寒波の条件下でも腐敗率が大幅に低減されたことなどを報告。セル苗を用いた種芋生産では、育苗期の温度管理や生育中の十分なかん水が重要であることを関係者で共有した。</p>			
結果と今後	<p>○当圏域におけるさといもの産地育成について、今後、モデル農家・集落の育成や早期米地帯に対応した栽培マニュアルの作成、省力機械の導入や集出荷体制の整備など、具体的な取り組み内容を申し合わせた。</p>			
			<p>推進方策を関係者で協議</p>	



標 題	きゅうりの新規栽培者に環境モニタリング機器の活用方法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年3月9日	場所	(株)松野町農林公社	
指導対象	鬼北地区きゅうり新規栽培者等	連携機関	鬼北町、松野町	
普及指導内容	<p>○鬼北地域で半促成きゅうりの定植が始まったことを受け、(株)松野町農林公社で新規栽培者等を対象とした新たな栽培管理方法の研修会を開催した。</p> <p>○当日は、環境モニタリング機器を会場に展示し、昨年秋に収集したサンプルデータを基に、気象条件や栽培管理のデータ化、生育状況を可視化する方法などの活用方法を指導した。</p> <p>○栽培が長期間に渡るきゅうり栽培では、環境モニタリングや植物体の栄養診断による草勢管理が安定生産の鍵となることから、出席した若手栽培者からはデータの計測方法や活用について大きな関心を寄せていた。</p>			
結果と今後	○当班では、次年度、関係機関と連携して本システムによる栽培実証を行い、先進技術を活用したきゅうりの生産性向上と普及に取り組む。			
				<p>左：きゅうりの新規栽培者を対象とした研修会</p> <p>右：施設栽培用モニタリング機器の展示</p>

標 題	高級菓子用加工桃の「枝吊り整枝」を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年3月14日	場所	松野町	
指導対象	新規栽培者	連携機関	松野町、(株)松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○高級菓子用加工桃の安定供給のため、早期成園化と樹冠拡大による出荷量増大を目指し、新規栽培者（地域おこし協力隊）を対象に「枝吊り整枝」を指導した。</p> <p>○「枝吊り整枝」は、果実の重みで枝が折れないよう支柱を用いて枝を支え、樹形を維持するもので、今回は支柱を地面のコンクリートブロックに固定せず、枝の重みを利用してバランスとりながら支柱を配置していく方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○本方法は安価でできる反面、ブロックや支柱の位置、番線（針金）の誘引方法が重要となるため、これらのポイントを説明し、栽培者からは「設置方法が良く理解できた」と前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○今回指導を行った園地は今年から収穫開始予定であり、今後は枝吊りマニュアルの作成や、果実への袋掛け（資材）の検討を関係機関と進めていく。</p>			
				<p>左：加工桃の枝吊り方法を指導</p> <p>右：枝吊り後の樹形</p>



標 題	南宇和高校生に就農支援制度を紹介		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年3月15日	場所	愛南町御荘平城	
指導対象	県立南宇和高校農業科2年生(13人)	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○県立南宇和高校農業科2年生を対象に、就農支援制度の紹介や農業に対する意見交換を実施し、研修制度や就農時に活用できる補助事業のほか、地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」を活用した新規就農者へのフォローアップについて説明した。</p> <p>○生徒から出された意見のうち、「重労働」や「脚立での作業が危険」に対しては、当班が取り組んでいる「河内晩柑」における作業性改善のための縮間伐や樹高切り下げの技術を紹介し、脚立の使用を減らし軽労働化が図れることなどを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○初めての取組みであったが、高校生の農業に対する印象や受け止め方を関係機関で共有することができた。</p> <p>○今回の意見をもとに来年度は、農業指導士や青年農業者の活動紹介、生産者との意見交換など、生徒の疑問や要望に応じた研修を検討していく。</p>			
 <p>南宇和高校生に就農支援制度を説明</p>				



標 題	道の駅みまのこだわり農産物第3弾始動		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月14日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	道の駅みま出荷者(2人)	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○道の駅みまの活性化に向け、一般品との差別化を図ったこだわり農産物の導入を推進している当室は、第3弾となる早出しスイートコーンの実証ほを設置した。</p> <p>○2戸の農家が2月下旬から7～10日間隔で3月中旬まで順次定植しており、早植えでの保温対策や管理作業について申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○生育は概ね順調で、5月中旬以降からの収穫開始を見込んでいる。</p> <p>○実証農家は産直市の特設コーナーでの高単価販売に期待しており、当室は、イベント等との組み合わせでの試食販売や併設レストランへの関連メニュー提案など、こだわり農産物のPRを強化する。</p>			
 <p>左：2月下旬定植 大型ハウス+トンネル</p> <p>右：3月中旬定植 パイプハウス</p>				



標 題	うめ早期収量予測への取組		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月	場所	松野町全域	
指導対象	松野町梅振興会	連携機関	(株)松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○松野町のうめは梅干し仕向けが多く、一定量の安定生産・計画販売が求められるなか、令和4年産が計画 55 t に対して 86 t と大幅に増加したことから、販売に苦慮するケースがあった。</p> <p>○新規需要開拓への取組を強化する一方で、生産量の予測が重要度を増すため昨年度から開花・結実状況の調査を継続して実施しており、園地数及びサンプル数を増やして詳細な調査を行った。</p>			
結果と今後	<p>○開花時期は大豊作年であった昨年度と概ね同様で、花芽数は昨年比 83%、訪花昆虫の活動についても確認、4月以降に結実状況等の調査を実施予定。</p> <p>○授粉用巣箱を設置した養蜂業者によると、巣箱の重量変化がみつばちの活動状況を反映しているのではとの意見があった。</p> <p>○早期の収量予測に向け、養蜂業者の協力を得ながらの受粉状況調査について検討を進めていく。</p>			
				<p>左：開花盛期を迎えたうめ</p> <p>右：うめ園地に設置されたミツバチの巣箱</p>


標 題	郷土のおやつを町内児童に伝承		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月2日	場所	伊方町地域振興センター	
指導対象	伊方町生活研究協議会員（6人）	連携機関	伊方町	
普及指導内容	<p>○えひめ食農教育推進事業の一環として、伊方町生活研究協議会が取り組む「酒粕まんじゅう」の加工・配布による郷土のおやつ伝承活動を支援した。</p> <p>○同協議会のたんぼぼグループ会員が、早朝より加工し、伊方町内小学校5校（児童：270人、教員：74人）にレシピと共に配布することで、郷土の味を伝えることとしたもの。</p> <p>○併せて、郷土料理の伝承に向け、インターネットで配信する調理動画の撮影を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○児童からは「ふっくら柔らかく美味しかった」「お家でもお母さんと作ってみたい」といった感想が聞け、郷土食への関心の高さがうかがえた。</p> <p>○会員からは、「イベントでしか販売していなかった」「もっと作る機会を増やし、多くの方に知って食べてもらいたい」との声も出された。</p> <p>○今後も動画やレシピ等の活用を支援し、郷土の味を伝承しながら、食農教育を推進していく。</p>			
				<p>左：会員で加工</p> <p>右：児童代表へ郷土のおやつを手渡し</p>


標 題	他県のスマート農業優良事例調査の実施と今年度の活動実績を検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年3月9日	場所	JAにしうわ	
指導対象	西宇和スマート農業推進協議会	連携機関	農林水産研究所他	
普及指導内容	<p>○西宇和スマート農業推進協議会は、今後の活動の参考とするため2月28日～3月1日、静岡県スマートみかん実証コンソーシアムとの意見交換を行うとともに、JAみっかびかんきつ選果場の最先端AI選果機を活用した省力化等の取組について調査した。</p> <p>○また、今年度の実績検討会を開催し、今年度の実証結果等の検討を行うとともに、JAみっかびの取組について意見交換を行い最先端のAI選果機の実用性について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○AIを利用したJAみっかびかんきつ選果場の稼働状況を、今後予定されている管内での選果場整備の参考とする。</p> <p>○次年度、新たにドローン防除について、防除効果や省力化などの実用性を確認しながら推進することとなった。</p> <p>○引き続き、スマート営農体系の確立を目指したスマート農業技術の実証と普及啓発に努める。</p>			
				<p>左：西宇和スマート農業推進協議会 実績検討会</p> <p>右：AIを利用したJAみっかびかんきつ選果</p>

標 題	農作物鳥獣害防止対策推進協議会の開催による被害対策の強化		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 〃 大洲農業指導班
年月日	令和5年3月7日	場所	八幡浜支局 大会議室	
指導対象	管内JA、市町及び農業共済職員(計11人)	連携機関	管内市町、管内JA、農業共済組合、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○南予地域の野生鳥獣による農作物被害額が約25,000万円と県下の67%を占める中、関係機関と被害実態や対策技術等に関する情報共有を目的に、当協議会を開催した。</p> <p>○管内の鳥獣管理専門員が、大洲市出海地区における生産者の対策意識・防護技術の向上を目指した取組活動を発表し、他市町への波及を図った。</p> <p>○また、捕獲後の有害獣の処理・活用体制の強化に向け、焼却施設の共同利用について協議するとともに、伊方町で改修予定の獣肉処理加工施設の検討状況について周知をした。</p>			
結果と今後	<p>○広域連携については、既存施設の利用では難しいことを共有でき、今後も当室から情報提供を行い、市町による解決案の検討を促す。</p> <p>○引き続き、関係機関と連携するとともに、次年度より、ハクビシン等の中型獣対策やジビエ利用への理解促進等を含めた鳥獣害対策に取り組む。</p>			
				<p>左：管内の鳥獣害対策状況について協議</p> <p>右：鳥獣害対策講習会（大洲市出海区）</p>

標 題	若手生産者が「儲かる農業」の実現を目指し実証ほを視察		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年3月9日、14日	場所	愛南町緑、長洲	
指導対象	若手かんきつ生産者	連携機関	愛南農業指導班	
普及指導内容	<p>○大洲市のかんきつ若手生産者から園地の作業性向上について相談を受け、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」で取り組まれている「河内晩柑」の省力高品質栽培技術実証ほの事例を紹介し、現地視察を実施した。</p> <p>○現地では、愛南農業指導班の協力を得て、園主及び担当普及指導員から、縮間伐と低樹高化された理想的な園地や、縮間伐の途中で樹形を改善している段階の園地の説明を受け、作業のポイントなどの習得を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○後日、自園での作業前の記録を兼ねて、対象園地をドローンで上空から撮影し、今後の縮間伐を進める上での参考とした。</p> <p>○対象者は縮間伐作業のイメージを掴むことができた。当班では園地の区画ごとでどう進めていくか検討しながら「儲かる農業」の実現に向け指導していく。</p>			
				<p>左：縮間伐の効果について学ぶ 右：ドローンで園地を撮影</p>

標 題	生活研究会が SDGs について研修		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年3月20日	場所	大洲市（にし川）	
指導対象	地区生活研究会員（22人）	連携機関	大洲市、内子町	
普及指導内容	<p>○食文化の継承や地域貢献活動の参考とするため、SDGsについて研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、内子町でオーガニック中心に量り売りを行うお店「ののうた」を開業している宮岡希実氏を講師に、SDGsの目標のひとつである「つくる責任 使う責任」について、地球環境と人々の健康を守る行動の在り方を、自身の国際ボランティア活動体験等を交えての講演を受けた。</p> <p>○当班からは、生ごみの還元や古着の再利用など、通常の生活の一部も、食文化の継承と同じように実践することを今後の活動に取り入れるよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「SDGsをよく理解していなかったので勉強になった」「講師は若いのにすごく行動力があり、まだまだ自分たちも頑張らねばと思った」など、今後の活動の参考として前向きに捉える意見が上がっていた。</p> <p>○参加グループのうち2グループでは新規会員が3人加入、今後の活動の活発化が期待される。</p>			
				<p>左：熱心に受講する会員 右：SDGs やグループ活動等の情報交換</p>

標 題	省力化に向けたゆずの樹形改善		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年3月7日	場所	西予市野村町現地ほ場	
指導対象	東宇和柚子生産部会員等（50人）	連携機関	JAひがしうわ	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培管理の省力化に向け、ゆずの幼木の初期管理と大木の低樹高化について講習会を実施した。 ○定植後4～5年程度の幼木の整枝・誘引の実演と、樹高3～4mとなった主枝を切り下げ、樹形改善のモデル樹を設置した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者からは「主枝候補枝はどのような枝を残すべきか」「切り下げる際はどの枝まで切り戻すべきか」などの質問があり、樹形改善とせん定技術の理解を深めた。 ○高齢化等による労働力不足に対応するため、樹形改善の推進に加え、省力機械の導入や機械が活用できる園地づくりなど、栽培管理の省力化に向けた取組を強化する。 			
		<p>左：幼木の整枝について実演 右：樹高切り下げについて指導</p>		

標 題	ミニトマト高設ポット栽培でDX啓発		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年3月14日	場所	西予市野村町	
指導対象	新規就農者（2人）	連携機関		
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニトマトの高設ポット栽培を開始した新規就農者を訪問し、栽培管理や病虫害防除指導とあわせ、今後の取組意向について相談を行った。 ○当班ではこれまで、研修や施設の整備に係る事業の活用、経営開始に向けた伴走支援を行っており、将来のDX化への取組に必要な栽培機材等の導入希望などについて聞き取りした。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の先進農家で行われている環境モニタリング機器の実証に関する勉強会などにも参加しており、新技術の導入やモニタリングデータの活用にも意欲的であることを確認。 ○次年度、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の重点指導対象者に位置付けることとしており、年収1,000万円農家の育成を目標に、濃密な支援を実施していく。 			
		<p>左：整備したハウス 右：高設ポットに定植した苗</p>		

標 題	令和5年産かんきつ輸出に向け意識統一を図る		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年3月22日	場所	八幡浜市、伊方町	
指導対象	かんきつ台湾輸出栽培者(4人)	連携機関	ブランド戦略課、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○令和4年産の屋根掛け温州みかんと「甘平」の台湾輸出に取り組む生産者に対し、販売実績を報告するとともに問題点を共有し、その改善策を検討した。</p> <p>○令和5年産の新たな防除暦を提案し、輸送中の腐敗果対策について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○4年産の輸出量は、温州みかん1.6t(令和3年産1.4t)、「甘平」2.1t(令和3年産2.1t)であった。</p> <p>○「甘平」は前年並みを目指すほか、温州みかんの台湾における評価は高く要望も多いことから、次年度は2tを目標に取り組むことを申し合わせた。</p>			



左：「甘平」輸出打ち合わせ
右：屋根掛け温州みかんの荷姿

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543